

研究報告 新課程の授業と学習評価

—地域の課題解決に向けた教育活動の授業実践に関する

指導方法の工夫改善及び評価に関する研究—

熊本県立菊池高等学校 教諭
猿渡 瑠里

1. はじめに

本校は、普通科と商業科の併設校で創立113年目を迎え、地域からも支え続けられる伝統ある学校である。校訓の「汗と夢」のもと「道徳性の陶冶、真理の探究、心身の錬磨」を目標に掲げ、各学科（普通科3クラス、商業科2クラス）が魅力溢れる教育活動に取り組んでいる。



2. 教育課程研究指定校事業の取組について

(1) 主題設定の理由

今後のビジネス社会においては付加価値の創出が求められる時代となるため、与えられた課題ではなく、自分で見出した課題の解決に挑戦するとともに、「自分がやりたいことを見つける」「表現力を磨く」「チームで取り組む」ことなどを通して「人としての付加価値を高めた生徒の育成」が必要であると考えた。そこで、本研究において生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、1年目は「マーケティング」と「情報処理」との学習内容を体系的に組み直し、生徒の視点に立った課題解決学習モデルを構築した。その学習モデルのもと、菊池市における地域課題の発見・解決を行う実践的・体験的な学習を行うことで、他者と協働する力や表現力、課題について科

学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養うとともに、情報を見極める力を育成することができた。2年目はそれらの取組を「課題研究」の中で引き続き展開し、課題解決学習モデルを更に発展させた授業実践の工夫改善に関する研究に取り組むことにした。さらにその取組を通して、生徒の「情報を見極める力」「表現力」「他者と協働する力」「社会人基礎力」「課題解決力」など付加価値を高めた生徒を育成することにより、持続可能な地域づくりに貢献する人材育成に繋がるのではないかと考え、この研究主題を設定した。

(2) 研究内容

① 課題解決学習を取り入れた授業の研究

1年目は情報処理の授業においてマーケティングで得た市場調査などのデータを活用するとともに、そのデータを、授業で習得した知識・技術を応用して加工し、グループ学習を通して分析・考察する学習活動を継続的に行った。こうすることで、他者と協働したり意見を尊重したりする様子が生徒に見られた。また、外部講師「一般社団法人みらいず設計Lab.」との連携・協力により、生徒たちにとって実現可能な課題解決学習プログラムに取り組んだ。その内容を実現させるために、2年目の課題研究で地域や企業に向けた課題研究発表会を行い、生徒たちの考えた地域課題を関係機関と共有し、実現化に向けた取組に発展性を持たせた。実際に10月末に地域活性化イベント「菊高ジャック」を開催し、特に生徒の主体性に関わる成長が大きく見られた。

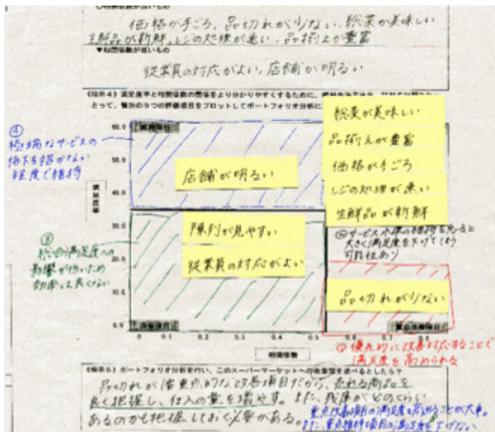
② 学習活動の工夫改善

ア. グループワークを中心とし、思考力や表現力

の向上に繋がる学習活動の工夫改善として模造紙や付箋紙の活用を行った。自他の意見を集約・整理し考察し合うことで、様々な視点での気づきや学びの振り返りに繋がる学習活動となった。



イ. ビジネスに必要な見方・考え方を醸成するための取組として、ワークシートやリフレクションシートの工夫改善に取り組んだ。自分の言葉で振り返りをすることが、「思考力」「表現力」「課題解決力」を向上させるツールとして機能しており、主体的に学ぶ意欲を喚起させる効果も見られた。



③評価方法の工夫改善

ア. 課題研究における観点別学習状況の評価に関する取組として、他者評価、課題研究発表会時の外部評価を取り入れた。次のように各項目の平均値を5点ずつに換算し、グループ評価点として「思考・判断・表現力」の観点で算出した。

■各項目の平均値（4点満点）

	企画力	スライド	発表内容	実現可能
コスプレ班	2.42	2.33	2.17	2.58
婚活班	2.92	2.58	2.50	2.83
農トレ班	2.42	2.50	2.25	2.50
ジビエ班	2.25	2.25	2.17	2.00
カフェ班	2.25	2.42	2.25	2.67
夜市班	2.75	2.42	2.42	2.58

↓ 5点ずつに換算

■グループ評価点（5点満点）

	企画力	スライド	発表内容	実現可能	合計
コスプレ班	4	3	3	4	14
婚活班	5	4	4	5	18
農トレ班	4	4	4	4	16
ジビエ班	4	4	4	3	15
カフェ班	4	4	4	4	16
夜市班	5	4	4	4	17

これを観点別のA・B・Cで考えた場合、評定が5段階評価となるので、次のような得点範囲による規準が考えられる。

項目点		得点範囲	評定
5	A	20点～17点	5
4	A	16点～13点	4
3	B	12点～9点	3
2	C	8点～5点	2
1	C	4点～0点	1

そのため下記のような事例が起きる。例えば、同じA A A Aでも評定換算すると5になる場合と4になる場合が混在する。

	企画力	スライド	発表内容	実現可能	合計	評定	
コスプレ	4	A	3	B	3	B	4
婚活	5	A	4	A	4	A	5
農トレ	4	A	4	A	4	A	4
ジビエ	4	A	4	A	4	B	4
カフェ	4	A	4	A	4	A	4
夜市	5	A	4	A	4	A	5

これは、新学習指導要領の3観点をABCの観点別評価で算出し、5段階評定に換算しなおす場合に自然的に発生してしまう。どこかの層で必ず2つ以上の評定が混在することになるため、生徒への説明責任が必要となってくる。そのため、各学校の実態に合った規準作りが必要不可欠となる。

イ. 「思考・判断・表現力」や「主体的に取り組む態度」(以下、主体性)を評価するために、ワークシートや行動観察において、客観的要素を適正に評価するための規準づくりやルーブリックの作成に取り組んだ。

評価項目	評価ツール	評価内容	割合
知識・技能	スライド	これまで学んだ商業科目の知識・技術・見方・考え方など、発表において適切に有効活用することができる。	3割
思考・判断・表現	発表ワークシート	菊高ジャックの経験を通して、地域活性化として効果が上がったことや、自分自身の成長に繋がったことなどチームや個人の分析の考察ができる。	5割
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート 行動観察	最終発表のスライドにおいて、主体的にチームに貢献する態度が見られるとともに、意見を積極的に集約する姿が見られた。	2割

▲ ワークシートに記載（生徒と情報共有）

	Excellent	Good	Developing
①進歩した事さどのように克服したか？当日の成功体験など	自分の体験をもとに記述しているとともに、定量的内容においても具体的な記述ができています	自分の体験をもとに記述しているが、克服した内容の具体性が定しい	体験記述が乏しい
②成長になった部分	具体的な経験と成長の部分での満足度が高く、客観的に自分自身を振り返ることができています	菊高ジャックでの経験が記述されているが、具体的な成長面との満足度が乏しい（またはその逆）	体験記述が乏しい
③5つの資質・能力がプラスに働いた場面について	5つの資質・能力がどのようプラスになったかを自分の経験と関連付けて具体的に一つ以上記述できている	資質・能力がプラスになった場を記述できているが、具体性に欠ける記述が見られる	体験記述が乏しい

Excellentが3つ	A	評価
Excellentが2つでGoodが1つ	A	
Good以上が2つ	B	
Good以下が2つ	C	
Developingが3つ	C	

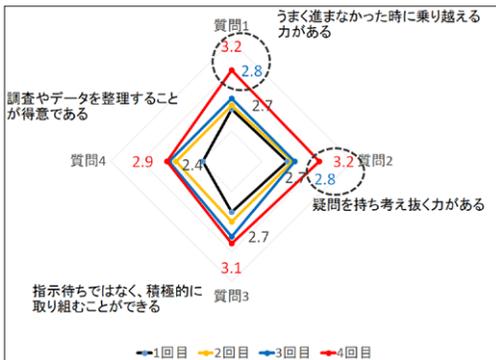
▲ ルーブリックの事例

上記の規準が毎回正しいわけではないため、生徒の実態に合ったルーブリックを常に更新するアップデートの意識が大切である。このような過程が指導と評価の一体化にも繋がっていくと考えられる。

3. 生徒の資質・能力等の変容について

以下の内容はアンケート項目の中で質問1～4までを主体性、質問5～8をチームワーク、質問9～15を社会との関わりにおいて分類し、令和2年5月・12月、令和3年4月・11月の計4回でその変容を分析・検証したものである。

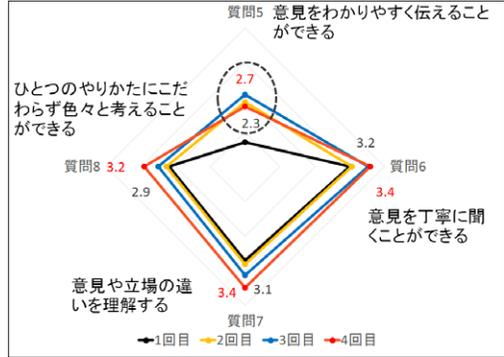
①【質問1～4の変容】：主体性の変容



主体性の変容として顕著に表れた部分が、質問1「うまく進まなかった時に乗り越える力がある」と質問2「疑問を持ち考え抜く力がある」の変容である。これらの項目に関しては、1～3回

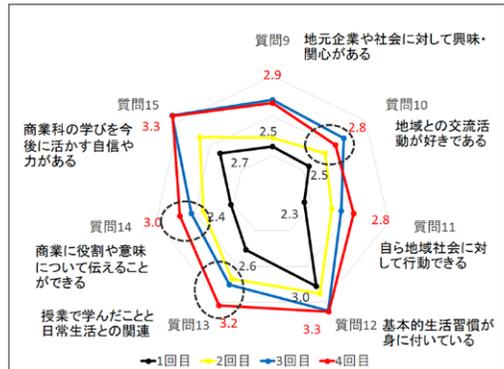
目までは伸び悩んでいた項目だったが、4回目「菊高ジャック」の体験活動後には、0.4ポイント上昇しており、生徒個人の主体性は自らが成功・失敗体験を得ることによって育成されるものであると検証された。

②【質問5～8の変容】：チームワークの変容



ワークショップや菊高ジャックなどの体験活動を通して、周囲との関係性や協働することの大切さなどから「協働する力」（チームワーク）の育成効果があった。しかし、質問5「意見をわかりやすく伝えることができる」では、菊高ジャック前後での伸び率が反転しており、菊高ジャックの準備や当日の役割を体験する中で、他者との考えの違いから自分の意見を周囲に納得してもらうことの難しさを体験したものであり、意見の違いや立場の違いを理解することと自分の意見を周囲に分かりやすく伝える部分の育成は、必ずしも比例するものではないという検証結果が得られた。

③【質問9～15の変容】：社会との関わりの変容



社会との関わりについても大きく変容しており質問 13「授業で学んだことと日常生活との関連」や質問 14「商業の役割や意味について伝えることができる」では菊高ジャック後にも大きく上昇し、地域課題解決学習効果の表れだと言える。

4. 研究の成果と課題（○成果／●課題）

- 科目横断的な学習の効果において主体的・対話的で深い学びやビジネス的な見方・考え方の醸成などへの効果が大きかった。
- ワークショップや体験活動の充実により、様々な視点から物事を考察し課題解決に導こうとするチームワーク（協働する力や課題解決力）の育成に繋がった。
- 主体性は生徒自らが成功・失敗体験を得ることによって育成されるものである。
- 地域課題解決学習のメリットを活かした教育活動の実践が、商業の学びに関する興味・関心を高めさせ、「商業の役割や意味について伝えることができる」や「授業で学んだことを日常生活と関連づけて考えることができる」と自信を持つ生徒の育成に繋がった。
- 地域課題を解決する学習が地域を知り社会参画へ意識を向上させるとともに、他者と協働することの大切さを学ぶ機会が増え、自己肯定感を持つ生徒の割合が増えた。
- 地域課題解決学習を通して、課題解決力や社会人基礎力の育成に関わる機会が多く、商業科での学びをキャリア教育に繋げる機会となった。
- 意見の違いや立場の違いを理解する力の育成と、自分の意見を周囲に分かりやすく伝える部分の育成は、必ずしも比例するものではなかった。
- 学校の校内組織として地域や産業界との関係構築を行う校務分掌の設置など、情報共有や資質能力の明確化を実社会と結び付ける担当者・組織づくりが必要である。
- 新学習指導要領の3観点をABCの観点別評価で算出し、5段階評定に換算する場合、2つ以上の評定が混在することになるため、各学校の実態に合った規準作りが必要である。
- 教員への事前アンケートから、指導目標に応じ

た授業設計ができていると回答した割合と自分たちが育てたい生徒の姿が明確であると回答した割合が下がった部分が本校の課題であり、学校全体で危機意識を持った教育活動が必要である。

5. 令和3年度国立教育政策研究所教育課程研究協議会発表資料

①研究協議会発表資料 ②生徒アンケート変容結果



※小社 Web ページでも公開中。

[ダウンロード] → [商業] → [じっきょう資料]

6. 終わりに

地域課題解決学習は、生徒自身が見出した課題の解決に挑戦することで、主体的・対話的で深い学びやビジネス的な見方・考え方の醸成など、様々な教育活動への展開ができる。これは魅力ある授業づくりとの関連性も非常に高く、実社会と授業が繋がることで生徒の興味・関心をさらに高め、授業で学んだことを日常生活と繋げ、その活動を増やしていくことで、生徒自身が学ぶ楽しさを感じ取ってくれたと言える。この2年間の取組を通して、地域の産業界には地元の高校生の力が必要不可欠であると再確認できた。そのための橋渡し役を組織として位置づけなければ、学校としても地域が求める人材を育成することが難しくなると言える。この2年間の取組の成果は非常に高かったが、本校としての課題も明確化した。今後それらを改善していくことで、社会に開かれた教育活動が充実してくると言える。今回の新学習指導要領の基本的な改訂ポイントである「社会に開かれた教育課程の実現」や「育成を目指す資質・能力の明確化」を学校全体で実現させていくためには、指導と評価が一体化しなければならない。今後も地域と共生する学校として、持続可能な地域づくりに貢献する人材育成に力を入れていきたい。